

# ICTを活用した教育の基盤となるファイル共有環境を実現

## 学校法人追手門学院 追手門学院大学 様

新キャンパス開設を機にBYOD®を本格導入し、 デジタル時代を担う優秀な人材の育成を目指す

※Bring Your Own Device: 個人保有の端末の活用

#### 事例のポイント

- お客様(追手門学院大学様)の課題
- 煩雑な手続きを要する既存のファイル共有環境が、ICT活用の妨げに

#### ■課題解決の成果

- 学校内外どこからでも簡単にアクセスできるファイル共有環境により、 BYOD 本格活用の基盤を構築
- コラボレーション機能を活用することで、教員と学生、学生同士のコミュニケーションを円滑化。
- ファイルのアクセスログを確認・分析することで、管理の効率化と 利用環境の改善につなげる

■導入ソリューション

Dropbox Business導入支援サービス (データ移行サービス、認証連携(SSO)環境構築サービス、APIツール開発)

数年後には、関西エリアの文系大学を代表する、ICT 活用の先駆け的な存在になりたい。それを目指して、学内でのDropboxの利用促進に取り組んでいきます。

総務部 財務課 課長/図書館・情報メディア部 図書館 課長/情報メディア課 課長 村上 道治 氏

#### 背景·課題

## 学外からアクセスしにくい既存ファイルサーバー 学生の柔軟な学びの阻害要因に

追手門学院大学が開学したのは1966年。「独立自彊・社会有為」を教育理念に掲げる追手門学院の大学部門であり、人文社会科学系の総合大学として人材の育成に取り組んできた。近年は地元地域のスマートコミュニティープロジェクトに参画し、その一環として茨木総持寺キャンパスを設立。一大文教地域の創造を目指し、新たな一歩を踏み出している。茨木総持寺キャンパスの開設に当たり、同大学が新たな教育方針として打ち出したのが、新教育"WIL"だ。WILとはWork Is Learningの略で、「行動して学び、学びながら行動する」の意。柱の1つに掲げたのがICT活用だった。「スマートフォンが普及した現在は、若い人の"PC離れ"が

顕著になっています。ただ、社会人として働く上では、 やはりPCスキルが不可欠。そこで本大学は、学生の私 有パソコンを講義で活用するBYOD (Bring Your Own Device) の導入を検討することにしました。新 キャンパスの開設を機に、1人1台のPC環境を整備す ることで、教育環境のICT化を加速しようと考えたので す」と追手門学院大学の村上道治氏は語る。

そこで課題になったのが、講義などで扱うデータファイルの管理方法である。従来は、オンプレミス型のファイルサーバーによって、教員・学生が作成したデータファイルを保管・管理していた。学生は、学内のPC教室でレポートなどを作成し、ファイルサーバー内の個人領域に保存。「VPN経由で学外からアクセスすることはできましたが、煩雑な手順が必要なためほとんど使われていませんでした。この状態では、BYODを導入しても学外でのPC利用が普及せず、大きな効果は期

お客様プロフィール



学校法人追手門学院 追手門学院大学

所 在 地 : 茨木安威キャンパス 大阪府茨木市西

安威 2-1-15

茨木総持寺キャンパス 大阪府茨木市

太田東芝町 1-1

U R L; https://www.otemon.ac.jp/

「追手門学院」はこども園から大学・大学院までの総合学園として、「独立自彊・社会有為」の教育理念を掲げ、地域社会、国家および国際社会において、指導的役割を果たしうる人間の育成に取り組んでいる。創立130周年を迎えた2018年には、学院全体の新教育を象徴する新概念として、行動して学び、学びながら行動する学修様式「WIL (Work-Is-Learning)」を提唱。追手門学院大学では、新教育「WIL」実現に向け、ICT活用教育に力を入れるとともに、2019年4月に新キャンパスを開講。新しい教育の基盤と教学体制の強化を進めている。



学校法人 追手門学院 追手門学院大学 総務部 財務課 課長 図書館・情報メディア部 図書館 課長 情報メディア課 課長 村上 道治 氏



学校法人 追手門学院 追手門学院大学 情報メディア課 主任 元木 伸宏 氏

## 学校法人追手門学院 追手門学院大学 様

待できません。セキュリティーを保ちながらどこから でも簡単にアクセスできる、新しいファイル管理の 仕組みが必要でした」と村上氏は振り返る。

#### 解決策と効果

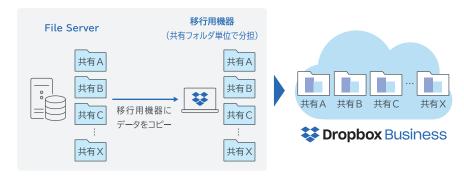
## いつでもどこからでもクラウドにアクセス 講義資料やレポートの内容を確認可能に

そこで同大学は、ストレージ環境のクラウド化を 前提として方法を検討。採用したのが「Dropbox Business (以下、Dropbox) 」だ。「コンシューマー 向けのDropboxを以前から使っており、多彩なファ イル管理機能やUI(ユーザーインターフェイス)の便 利さなどは個人的に実感していました。加えて、教 育機関での採用実績が多いことがポイントとなり、 これなら安心して導入できると感じたのです」と同 大学の元木伸宏氏は採用理由を語る。また同大学は、 学生のメール基盤としてマイクロソフトの Office365を活用していた。Dropboxがこれと連 携可能で、シームレスなデータの保存・利活用が可 能な点も、BYODの推進につながる点として評価し た。さらに、Dropboxの機能にも注目。特にポイン トになったのが、クラウド上のファイルを必要に応じ て都度ダウンロードして利用する「スマートシンク」 機能だ。これを使えば、学生の個人PCの容量を圧 迫しないため、BYODのハードルを下げられると判 断した。「『保管したファイルを、いつでもどこにいて もPC /スマートフォンで見られる」ようにするのが 新しいストレージ環境に移行する最大の目的でした。 Dropboxであればそれが実現できると感じました」 と村上氏は述べる。

導入に当たり、Dropboxの自社導入実績、及び 活用経験を評価してパートナーに採用したのが SCSKだ。SCSKはDropbox社が国内で最初に 認定したサービスパートナーであり、2017年から企 業や教育機関におけるDropboxサービスの包括的 な導入を支援している。

SCSKは環境設定、データ移行といった作業を順 調に進め、同大学は2019年春の新キャンパス開設 と同時にDropboxの利用を開始。まずは1年生全 員を対象にBYODをスタートした。また、アカウント は教員にも配布しており、講義での資料配布などに Dropboxを活用している。

### SCSKのDropbox Business導入支援サービスメニュー[データ移行サービス]



既存ファイルサーバー/ NASの共有データをDropboxへ移行します。

2019年10月現在、ユーザー数は教員・学生を 合わせて約4000人にのぼる。「学生の活用度合い は個々人の学習スタイルや選択している講義によっ てまちまちですが、高頻度で学外から利用する学生 もいるなど、効果を実感しています」と村上氏。加え て、そもそもそうしたログや統計情報が取得できる ようになったことも、Dropboxを導入して良かった ことの1つだと語る。これにより、「どのデータへのア クセスが多いか」「どういう使われ方が多いのか」と いったことが可視化でき、利用環境の改善や最適化 に生かせるようになった。「さらに、ファイルのリカバ リーが容易になったこともメリットです。ファイルの 変更履歴が残るため、誤って削除してしまったファイ ルも簡単に復元できます。ランサムウェアなどに感 染した場合でも、ファイルを容易に復元できるため、 我々管理者側の負担は大いに軽減されています」と 元木氏は付け加える。

#### 今後の展望

## 学生・教職員を含め、学内の全インフラを ゆくゆくはDropboxに統合していきたい

今後は、4月に新入生が入るたび、新学年全員に BYODを導入することを予定している。これにより、 3年後には全学生がDropboxベースのBYOD環境 で講義を受けられるようになる計画だ。また、現在 は既存のファイルサーバーを引き続き使用している 事務職員についても、ゆくゆくはDropboxへ移行 できないか検討を進めている。「すべての学生・教 職員がDropboxベースのファイル管理に移行すれ ば、教員と学生の情報共有やファイル送受信、事務 職員と学生とのコミュニケーションなどが一層円滑 に行えるようになるでしょう。大学組織で扱うファイ ルは、学生の氏名や成績などの機密性が高い情報 が多数含まれています。十分なセキュリティを維持し ながら、BYODのメリットを享受する最適な方法に ついて、Dropbox、およびSCSKと一緒に検討して いるところです」と元木氏は期待を語る。

明日の社会を支える優秀なデジタル人材を輩出 するため、BYODによってICT活用の加速を図る追 手門学院大学。DropboxとSCSKは、同大学の取り 組みをこれからも強力に支援していく。

"クラウドを利用すれば、ファイルの受け渡しや情 報共有、コミュニケーションが円滑に行えるように なります。いずれは学内の全インフラを Dropbox に統合していければと考えています。" 情報メディア課 主任 元木 伸宏氏



ITマネジメント事業部門 西日本ITマネジメント事業本部 サービス営業部

寧通

#### **■SCSK担当者からの声**

追手門学院創立130周年記念事業の一環である追手門学院の新キャンパスの開校に伴い、学び方革新を提供できる"知恵の場所"として、 Dropboxのご用命をいただきました。長年の基盤インフラ構築ノウハウとDropboxサービスパートナーとして培った豊富な実績を活かし、 追手門学院大学様へDropboxを導入しました。既存ファイルサーバーのデータをDropbox上に移行する作業を問題なく、無事新学期開始 までに完了したことに対して、「SCSKなら安心して任せられる」「期待通りの結果を出してくれた」など、高く評価いただきました。これからも お客様と「共に未来を創る」ことを念頭に入れながら、お客様のビジネス・事業に貢献できるよう、最適な提案を引き続き実施してまいります。



ソリューションの詳細情報や問い合わせ先はこちら

Pickupソリューション 働き方改革・生産性向上 共同作業をさらに安全で効率的に「Dropbox Business」 ▶ URL https://www.scsk.jp/r/dropbox/

- ▶ http://www.scsk.jp/pickup/workstyle/index.html
- ▶ Mail dropbox-sales@scsk.jp



- ◆ 本リーフレット記載の会社名、製品名は各社の商標、または登録商標です。なお、本文中や図版には®マーク、TMマークを表記しておりません。
- 記載されているロゴ、文章、図版その他を無断で転載、複製、再利用することを禁止します。
- 本リーフレット記載されている情報は制作時点の内容であり、予告なしに変更することがございます。予めご了承ください。